



さいたま新都心に一番近い学校

平成30年2月号

平成30年2月1日

さいたま市立下落合小学校

電話 852-2280

FAX 852-0188

下落合小だより

学校目標 よく考える子 思いやりのある子 明るく元気な子

21世紀のリーダーと成る子どもたちへ

校長 稲垣克行



1月23日大雪の中での登校

1月23日(火)の中央区球技大会(バスケットボール)の大雪による中止は残念でしたが、大会の縮小はあるものの競技そのものはできるようでした。安心しました。5年生の代表の学級を含め、校内大会への準備の中、学級の団結、勝負にかけるエネルギー、緊張感、友情や思いやりの心など。人生にとっての成長の場となりました。

さて、ある本の中に「知識」と「知恵」について書かれた場所があり、面白い問題が載っていたので紹介

します。【問題】「米一粒の重さを知りたい。どのように量りますか?」です。どうでしょうか?【予想される解答(反応)】①台所用の計量器で量る。②小さすぎて量れない。③理科室の実験用の量を借りて量る。④ネットで調べる。⑤意味がないので考えない。⑥百とか千個を、まとめて重さを量り、後から個数で割る。⑦その他 どれも素直で良い解答(反応)だと思います。どれも学んだ「知識」を基にして、考え・判断したものです。米一粒は約0.023gでした。(③⑥の方法で)皆さんはどの方法で量りますか、実際に量ってみましょう。

このことから「知識」と「知恵」の関係を考えると、「知恵」は身につけた「知識」から生まれるということ、「知恵」から生まれた事柄は「知識」になるということ、「活用できない知識」は「知識」として不十分であることなどがあるように感じます。江戸時代(変化の少ない時代)の高齢者は、若い人の「知恵」を既に「知識」として獲得していたので、尊敬の対象でした。

私は、色々と考えた後、必ず⑦のその他を残すようにしています。それは、私より、より良く考える児童、大人、先生が必ずいるからです。また、11月号で紹介したノーベル物理学賞をとったファインマンの言葉「考え方や方法を教えても身につくものではない。使ったり、悩んだりしながら自分の方法で学ばないと本当の分かったにはならない。」にあるように、更に考える余地を残すためでもあります。

21世紀のリーダーになる子どもたちには、「よい知識」と「よい知恵」を身につけて欲しいと願っています。

【追加問題2】「愛犬の体重を量りたい。どのように量りますか?」色々考えてみてください。



研究発表会の御協力に感謝申し上げます。

1月26日(金)市研究委嘱の研究発表会を開催しました。「自分で考え、議論し、学びを深める児童の育成をするには、どんな授業が効果的か」を市内の先生方に問うものでした。PTA、児童の皆さんの御協力で2年間の成果をお伝えできました。